

朝日信用金庫（東京都、橋本宏理事長）は1月28日、東京都中小企業振興公社の助成金に対応したPOファイナンス（POF、受発注債権担保融資）の第1号融資を金融界で初めて実行した。通常のつなぎ融資と違い、助成金交付と同時に専用の決済口座を通じて、直接融資金を回収できる仕組み。1億円が上限の助成金も対象としており「他地域でも利用できれば」（地域金融機関）との声もある。

企業間の受発注情報、補助金の交付決定通知情報などを電子記録債権化したものを担保に融資するPOFサービスは、Transaxが提供。政府の「ものづくり補助金」に加え、2020年9月には都公社助成金のつなぎ融資も対応可能となった。

朝日信金は19年6月にTransaxと提携し、POFサービスを開始。19年10月～21年1月末の補助金対応POFは、7件・1億100万円（都公社分を含む）の実績となっ

都公社の助成金でPOF

交付と同時に融資回収

ている。

今回の融資先は、骨伝導技術を活用したイヤホンなどの開発・製造・販売を手掛ける「Boco」（東京都、謝端明社長）。同社は19年9月に都公社「革新的事業展開設備投資支援事業」の採択を受けた。骨伝導イヤホンの市場拡大を受けて、量産設備などの投資に約6300万円必要だったが、助成金支給は

朝日信金、金融界初

事業実施後。ベンチャー企業は、扱ったことのない新スキームだった手元資金が必要だったため、年末に確認。年た。謝社長は、つなぎ融資を複数機関に頼むも「メニューにはない」と断られ続けた。

「多数の特許を持ち、財務諸表などを入手し、担当と同社を訪問し、融資を複数機関に頼むも「メニューにはない」と断られ続けた。

同社は20年12月、取引先の紹介でTransaxを知り、朝日信金を紹介してもらった。融資部から純新規の案件を受けたのが、日本橋支店の玉川浩介（34）。玉川



Bocoの謝社長（左）から、骨伝導の技術を使ったスピーカ一について説明を受ける玉川係長（2月12日、東京都中央区）

玉川係長の迅速な対応の結果、Boco社は、助成金交付の条件となる21年3月末までの事業実施に間に合う見込みだ。謝社長は「経営は黒字でも資金がない時、金融機関のサポートによって成長を左右される。今回の融資は、玉川さんの熱意があってこそ」と感謝。玉川氏は「海外展開に合わせ、強みとする外国為替でも支援したい」と意気込む。